

令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第9回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年11月3日（金）9:00～15:30

参加者：7名（学生：4名 教職員：杉山、中澤、阪本）

■実施場所：春日山原始林

■第9回春日山遊歩道1周ウォーク（春日山遊歩道南部～北部）

春日山遊歩道を1周し、異なる植生や人との関わりなどについてじっくりと歩き体感します。

9:00 春日山遊歩道（南部入口）

9:10 挨拶・フィールドワークスタート

9:30 南部交番所 準備体操

10:30 妙見宮手前 感性の体操

12:00 首切り地藏休憩舎

13:00 大原橋休憩舎・昼食

13:45 鶯の滝

15:00 若草山山頂

15:30 水谷茶屋前・解散

■概要報告

本フィールドワークで今年度最終回となる。今回は、ESDと世界遺産の授業でのフィールドワークとしての位置付けもあり、受講者が参加する形となった。

春日山遊歩道を南から北へ。途中、鶯の滝、若草山山頂を經由して歩く長距離のコースでフィールドワークを実施した。11月に入り、原始林内では、シイ・カシ類のどんぐりが多数落ちていたため、どんぐりの違いなどを観察しながら歩く。林内の気温上昇に合わせて靄が立ち込め、太陽の光線がくっきりと見える様子に参加学生は感嘆の声をあげていた。

この日の天気は清々しく、今年度のフィールドワークの中で最も快適であった。紅葉にはまだ少し早いものの、色づき始めた木々や、どんぐり以外にも落ちている木々の種子を観察したり、ムクロジの果肉が泡立つことを確認したり、ゆったりと歩きながら、周辺の自然を楽しんだ。

妙見宮の手前では、耳に手をかざすと谷方向の川のせせらぎの音が聞こえたり、イカルの声や樹上でなく虫の声などにも気がつくことができた。また、所々に設置された植生保護柵（防鹿柵）についても場所ごとに設置時期や環境が異なっているため、効果の違いについても確認することができた。

春日杉が多いエリアでは、その大きさに驚き、春日山がさまざまな形で利用され守られてきたことについてもじっくり時間をかけて歩くことで感じてもらったのではないかと感じた。

若草山山頂からの下山時には、みな疲れて言葉数も少なくなっていたが、天候にも恵まれ気持ちの良いフィールドワークになった。

■写真



どんぐり（カシ）についての解説



木漏れ日の光線がはっきりと見えた



時折立ち止まり風景を楽しむ



妙見宮



通称：Kの木



春日杉の大きさを感ずる



首切り地蔵



世界遺産の碑



滝坂の道で集合写真



若草山山頂からの風景を楽しむ